

霧島山

概況

御鉢火口の噴気活動は、監視カメラで 7 日と 13 日に御鉢火口縁上から高さ 300m の噴気が上がっているのを観測するなど、消長を繰り返しながらやや活発な状態が続いています。

下旬は、新燃岳付近を震源とする微小な火山性地震がやや増えました。

噴気活動の状況

御鉢火口内の噴気活動は、消長を繰り返しながら、やや活発な状態が続いています。監視カメラによる観測では、御鉢火口縁上から高さ 50～300m の噴気が時折上がっているのが観測されました。噴気高度の最高は、7 日と 13 日の 300m でした（図 2）。

新燃岳火口周辺では、噴気活動に大きな変化は認められませんでした。

地震・微動活動の状況

霧島山の地震回数（気象庁観測点 A 点）は、94 回（5 月：17 回）で、前月よりもやや増加しました（図 1）。これらはいずれも微小な地震でした。震源が求まった地震は、火山周辺の地震を含め 36 回で、そのほとんどは、新燃岳の北東約 7 km 付近の深さ 8～10km と、新燃岳付近の深さ 0～3 km に分布しました（図 3）。

新燃岳

新燃岳付近を震源とする火山性地震は、20 日までは 1 日あたり 0～4 回と少ない状態で経過していましたが、21 日～28 日にかけては、1 日あたり 4～12 回とやや多くなり、月回数も 76 回（5 月：12 回）となりました。これらの地震はいずれも微小な地震でした。

新燃岳付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

御鉢

御鉢付近を震源とする火山性地震は、1 日あたり 0～3 回と少ない状態で経過し、6 月の地震回数は 9 回（5 月：19 回）でした。

御鉢付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

地殻変動活動の状況

GPS 連続観測（気象研究所の観測点を含む）では、各観測点間の基線長に火山活動に起因する変化は見られませんでした（図 5）。

また、気象研究所の 3 点の傾斜計には、火山活動に起因する変化は観測されませんでした。

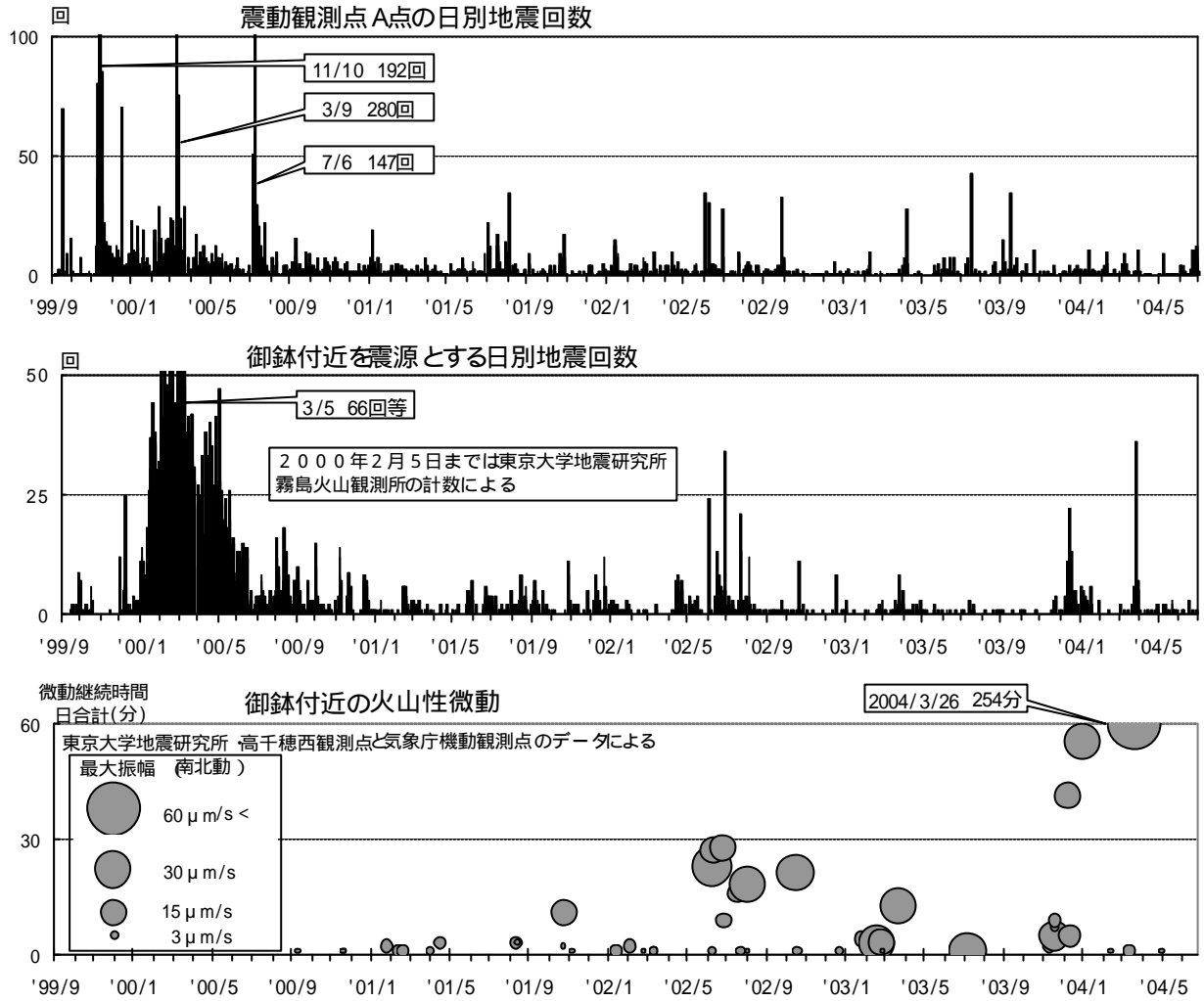


図1 火山活動経過図(1999年9月~2004年6月)

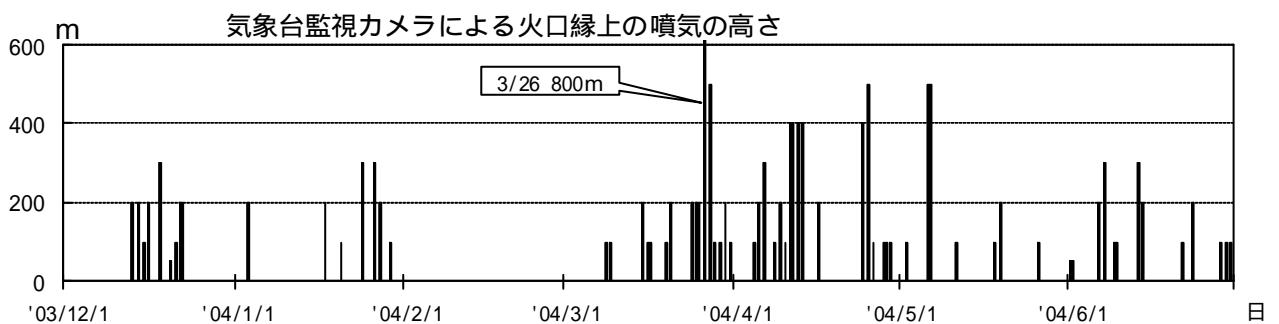


図2 御鉢火口の噴気の最高高度(2003年12月~2004年6月)

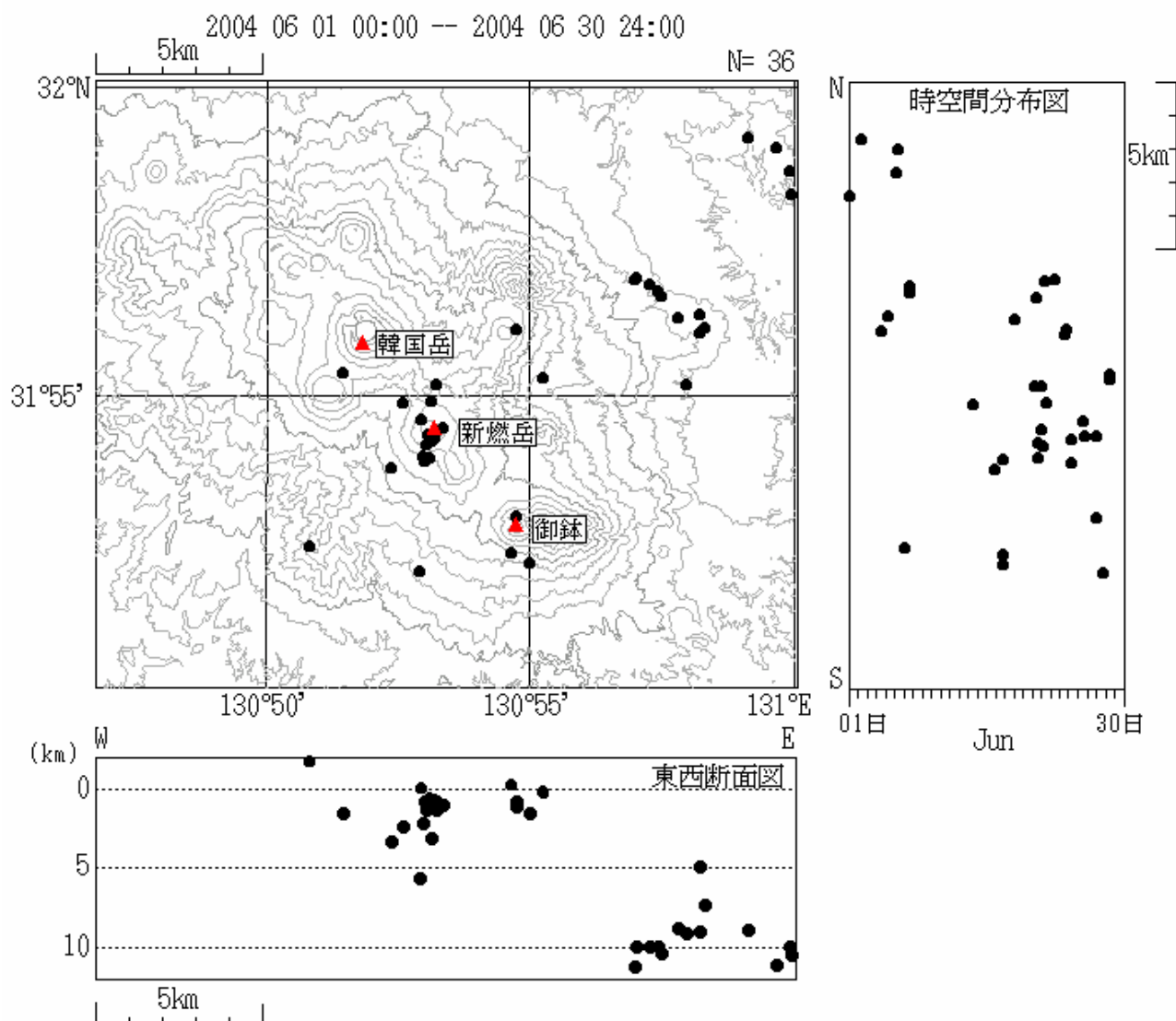


図3 震央分布図（上）断面図（下）時空間分布図（右）
（2004年6月1日～6月30日）

本資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、東京大学、気象庁のデータを用いて作成している。

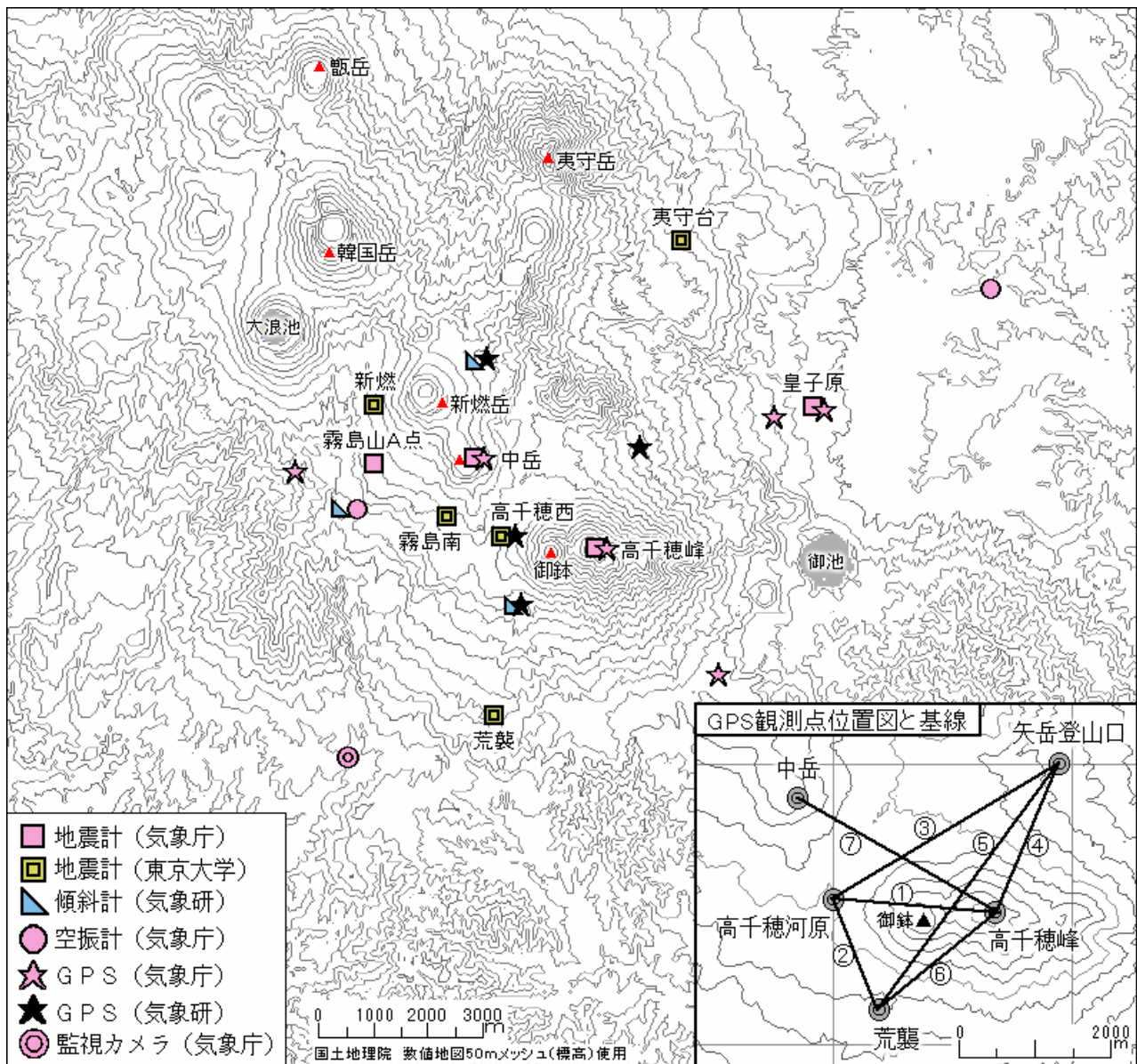


図4 霧島山広域観測点位置図(気象庁監視)

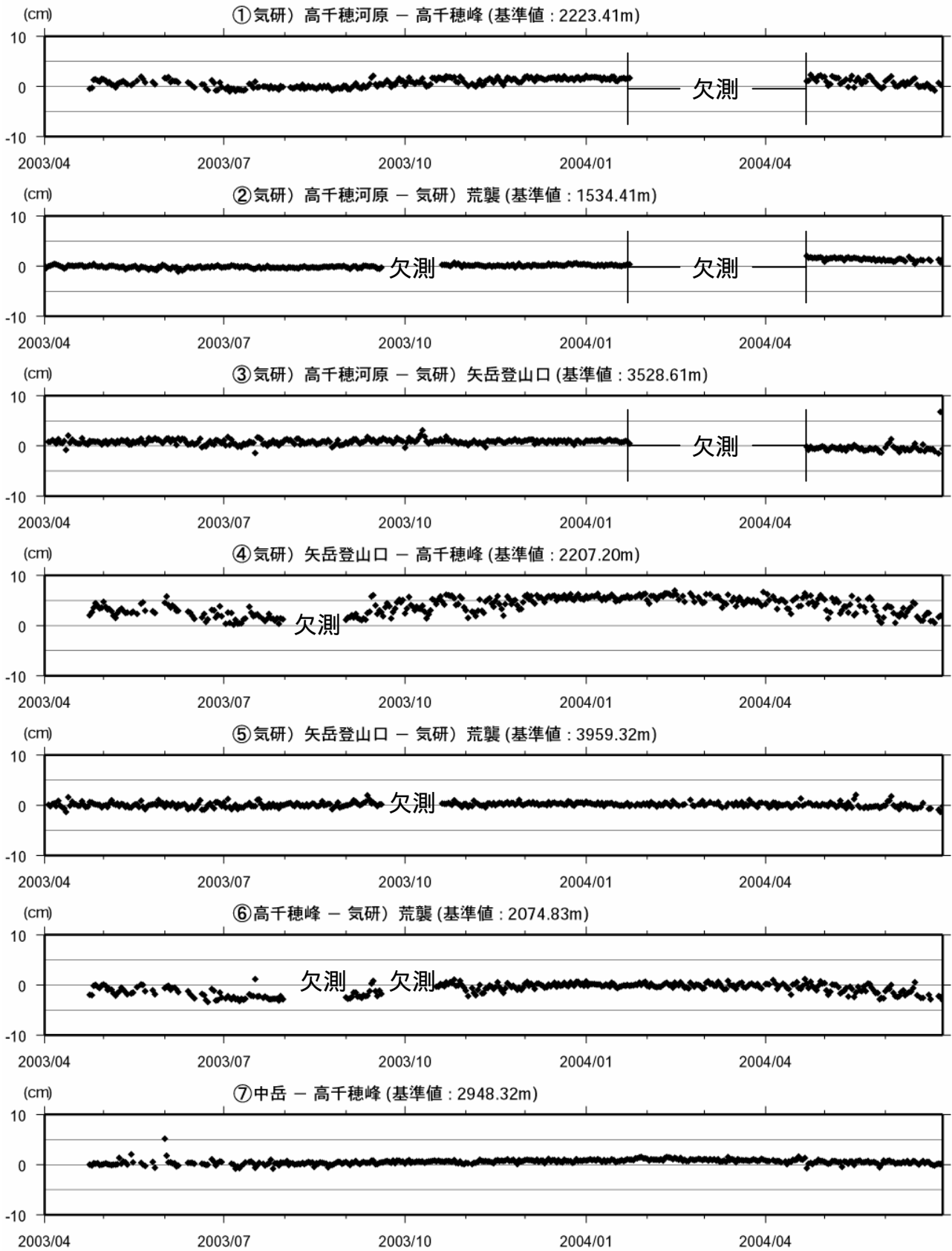


図5 GPSによる基線長変化(2003年4月1日~2004年6月30日)
 ・気研)高千穂河原観測点は2004年1月23日から4月22日まで欠測